

神於山自然再生活動指針

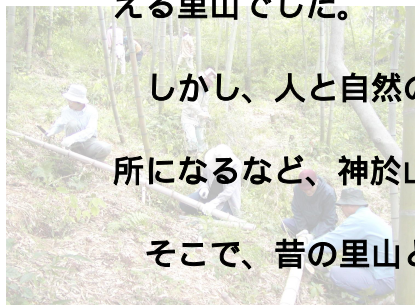
（概要版）



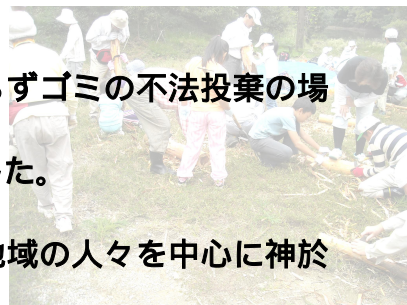
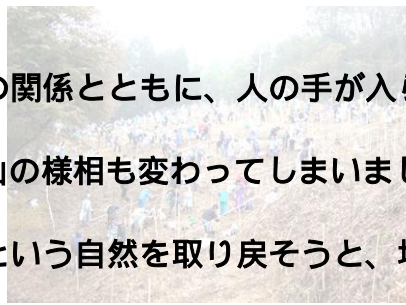
神於山は古くより、雨乞い信仰の対象であるとともに、地域に恵みを与



える里山でした。

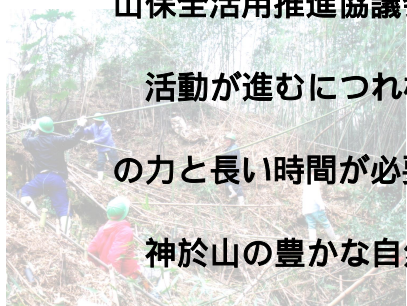


しかし、人と自然の関係とともに、人の手が入らずゴミの不法投棄の場所になるなど、神於山の様相も変わってしまいました。

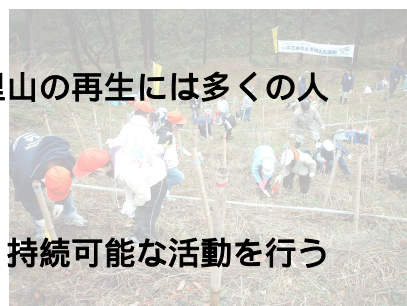
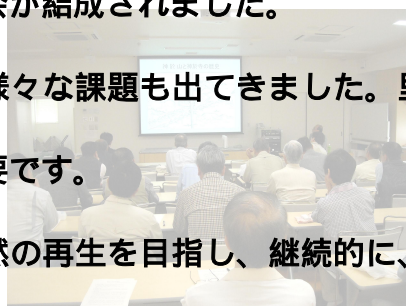


そこで、昔の里山という自然を取り戻そうと、地域の人々を中心に神於

山保全活用推進協議会が結成されました。



活動が進むにつれ様々な課題も出てきました。里山の再生には多くの人の力と長い時間が必要です。



神於山の豊かな自然の再生を目指し、継続的に、持続可能な活動を行う

ための方向性をこの指針で定めました。



平成 24 年 8 月
神於山保全活用推進協議会

第1章 活動指針とは

1. 活動指針3つの柱

3つの柱

「楽しく継続して活動する」
「たくさんの人が集う山、子どもも大人も遊び、学び、憩う山とする」
「動植物と人間の共生をめざす」

神於山自然再生全体構想の長期的目標である、「自然植生の回復と保全」「活力ある森の再生」「市民が親しめる自然の再生」を達成するため、～の3つの柱を軸にし、活動していきます。



2. 神於山方式による活動の推進

神於山方式

「多種多様な団体の連携」
「マンパワーを最大限に活かす」

神於山における活動の特長は、多様な団体の参加と、マンパワーです。この2点を活かす活動を神於山方式として、新たな課題を乗り越えます。

また、環境教育活動を通じて神於山の魅力を発信し、広域的・継続的活動に繋がります。

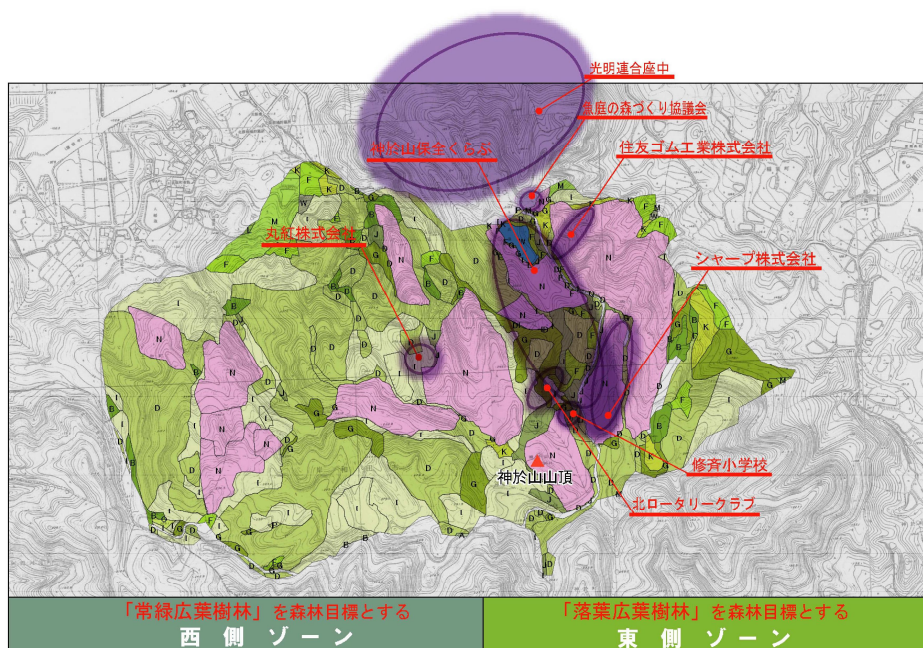
第2章 神於山自然再生活動指針

1. 「常緑広葉樹林」と「落葉広葉樹林」が両立する山を目指して

神於山の自然環境的特性、各団体の現在までの活動状況から、大きく次の2つのゾーンに分けます。

西側ゾーンでは自然遷移により、本来の植生である「常緑広葉樹林」を目指します。

東側ゾーンでは積極的な維持管理により、里山林と呼ばれる「落葉広葉樹林」を目指します。



2. これからの自然再生活動

(1) 4つのモデルエリアを設定し、その維持管理方法を提案します。

【 育 成 エ リ ア 】	自然再生整備地の植栽が行われた場所に位置します。植栽樹の生長のために、重点的に保育管理を行うエリアです。自然遷移の力を活かし将来的に、活用・景観・モニタリング監視エリアへの移行を目指します。
【 活 用 エ リ ア 】	基本的に活動団体の管理する場所に位置します。積極的な利用が図られるため、その利用度合いに応じた植生管理を行います。
【 景 観 エ リ ア 】	林道や歩道などの周辺に位置します。見通しなど快適性に配慮し、枝打ちや蔓切りなどの整備を行います。
【モニタリング監視エリア】	活動範囲外などの利用頻度の低い場所に位置します。基本的に自然遷移にゆだね、モニタリング調査など継続的な監視を行い、状況に応じた整備を行います。

(2) 活動内容について2つの基本ルールを定めます。

里山の自然再生活動には、生物多様性保全の観点が必要不可欠です。そこで、次の2つの基本ルールを定め生態系に配慮した活動を行います。

2つの 基本ルール

- 「植栽する樹木は、地域の自生種を用います」
- 「外来動植物や遺伝的に異なる地域外の植物の持込禁止」

(3) モニタリング調査を実施します。



定点撮影調査や指標生物調査など、誰もができる調査から実施していきます。理科学習の教材となるような調査を実施することにより、子どもやその保護者である大人の関心を高めます。将来的には、さらに専門的な調査の実施を目指します。

調査結果は自然再生活動に反映させていきます。

(4) 環境教育を推進します。

子どもたちを中心に、山は「あそぶ・楽しむ・憩う」場所であることを理解してもらうと同時に、歴史、文化面と関連付けた環境教育を推進します。

内容は各団体の得意分野を活かした形で行い、長期的視点で山の活動の担い手を養成します。



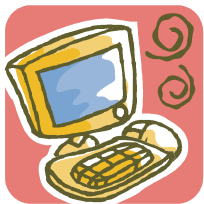
3．組織づくりと企画の充実により活動団体の連携

専門部会の設置やイベント、勉強会、情報交換会、合同活動、モニタリング調査、環境教育などにより、団体間の連携を図ります。



第3章 今後の活動展開

1．新たな参加者（団体）の獲得



（１）情報発信により、地元住民の参加を促進します。

ホームページの開設や広報紙の発行などによる PR、情報提供を行い、住民が参加しやすいような環境づくりを目指します。

（２）連携を通じ、市内の活動団体の参画を促進します。

教育委員会や町会、ボランティア団体、ＪＡが運営する愛彩ランド、山裾の農業関係者などと連携し、環境学習やイベントを通じた活動で、新たな団体の参画を促します。



（３）イベントなどの開催により、メンバー増加を目指します。

協議会としての合同活動やイベント開催により、既存の参画団体からの参加者増加を目指します。

（４）社会貢献（CSR 活動）を目的とした企業等の参画を推進します。

大阪府のアドプトフォレスト制度などを積極的に活用し、より一層企業など多種多様な団体の参画を推進します。



2．広域的な活動展開に向けて

神於山周辺には、和泉葛城山などの山地、春木川、牛滝川などの河川、ため池群、丘陵地区、大阪湾など、様々な場所で異なる生態系があります。これらは全て神於山と何らかの相互関係があります。

これらの様々な生態系のつながりを視野に入れ、それぞれのフィールドで活動する団体や住民と連携した活動を行います。さらには、神於山の自然再生活動を生物多様性保全活動につなげていきます。